

みんなで子育て

祖父母世代の子育てとパパママ世代の子育て どこが違う？

子育て環境は時代とともに大きく変わり、考え方や常識も変化しています。子育ての世代間ギャップでお互いに戸惑ってしまうこともあるでしょう。知っておきたい「子育て今昔」を紹介します。

1 抱っこ	昔 抱き癖がついてしまうので、泣いてもすぐ抱っこしないよ 自立心を育てるためには、時間を決めて抱っこするのがいいわね	今 人との信頼関係や友達づくりの基盤にもなるので、ためらわずにたくさん抱っこしましょう。触れあい関わることで子どもの情緒が育ち、脳が健全に発達します。パパママもわが子がかけがえのない存在だと肌で感じられますね。
2 離乳食・アレルギー	昔 離乳食が始まる前に湯冷まし(白湯)や果汁をあげて、母乳やミルク以外の味に徐々に慣らさないといね	今 5~6か月までは、母乳やミルクのみで栄養も水分も十分です。果汁は甘さが強く、母乳やミルクを飲まなくなってしまう懸念から、離乳食が始まる前には飲ませなくてよいとされています。 <small>アレルギーが出る可能性があるため、初めての食品は1日1品離乳食用スプーン1さじから始めましょう。</small>
3 むし歯予防	昔 大人が使ったスプーンや箸でそのまま赤ちゃんに食べさせて問題ないよ 離乳食は、大人が口の中で噛み砕いてあげるといいわよ	今 噛み砕いたものを与えたり、スプーンや箸を共有したりすると、大人の唾液に含まれるむし歯菌が子どもの口に入る恐れがあるので控えましょう。
4 断乳と卒乳	昔 離乳食を進めるためにも、1歳になる頃には「断乳」して母乳をやめたほうがいいわね	今 子どもが自然と「卒乳」するまで授乳してOKです。母乳を与えながら離乳食を進めましょう。

科学の研究が進み、昔の「こうあるべき」から「のびのび子育て」へ。

たとえば、以前はやめさせようとしていた指しゃぶりも、指先の感覚を覚えて物をつかむ・つまむために必要な発達段階なので見守っていて構いません。オムツ外れの時期も、昔はできるだけ早いほうが良いとされましたが、1人1人の成長によって違うので、その子の状態をよく見て決めましょう。他にも「適度な外気浴」「薄着でOK」「うつぶせ寝ではなくおむむけ寝」「はちみつは1歳を過ぎてから」「妊婦は2人分食べなくてよい」「新生児期からのチャイルドシートの義務化」など時代とともに常識は変わっています。世代間ギャップでお困りのときは、保健師や助産師に相談してくださいね。



祖父母とパパママが円満な関係を築くコツ！

家族だからこそ、かえって難しさのある親・義父母や娘・息子夫婦との人間関係。孫(子)を思う気持ちは同じでも、価値観や立場の違いからギクシャクしてしまうことも。それぞれの悩みや心がけたいポイントを知りましょう。

祖父母の悩みの例！

孫のためについ世話をやきたくるけれど、あまり頼ってこないのは嫌がっているからだろうか…

子育ても今と昔ではずいぶん違うようだから、手出し口出しをためらってしまう

大変なときは遠慮せずに甘えてほしい



パパママの悩みの例！

子どもを少しの時間預かってもらって自分の時間がほしい…でも、甘えていると思われるのでは？

“昔はこうだった”と昔のやり方を押し付けないでほしい

手伝ってくれるのはありがたいけど、この子に合ったやり方を事前に確認してほしい



祖父母の心得3か条

1 子育ての主役はママとパパ

祖父母はあくまでサポート役と心得ましょう。孫可愛さのあまり先回りせず、普段の生活リズムや与えたくないものなど、子育て方針についてパパママからよく聞いてみましょう。

2 頼られたときには精一杯のエールを

情報は豊富でも、「親」としては0歳のパパママ。「おばあちゃんの知恵袋」には大助かりです。子育て初心者のおじいちゃんは、一緒に一から学ぶつもりでできることから始めましょう。

3 「甘やかす」のではなく「甘えさせる」

孫が喜ぶからといって、望みを何でも叶えてあげるのは考えもの。大量のプレゼントや甘いお菓子ばかり孫に与えて、パパママを困らせてしまう祖父母は多いものです。溺愛のあまりタガが外れる「孫フィーバー」にご注意！孫を訪ねるときは必ず連絡しましょう。

パパママの心得3か条

1 頼り上手になる

周囲に頼ることは必要な育児技術のひとつ。でも育児を丸投げするのはNG！祖父母に何時まで何をしてもらいたいのか、何をしてほしいのか、具体的にははっきり伝えましょう。

2 正解を探さない

「祖父母とパパママのやり方、どちらが正しい？」という正解探しではなく「今、この子が求めていること」に応えることが一番大切。ときには「こんなときどうしてた？」と祖父母の知恵を借りてみましょう。

3 感謝の気持ちを表そう

当たり前になりがちな祖父母の存在ですが、小さな子どもの相手をするのは体力的にもきついもの。日頃から感謝の気持ちをきちんと伝え、記念日には小さなプレゼントをするのもよいでしょう。

参考/みんなで子育て
[監修・執筆]原尻風葵
(助産師・保健師・看護師)
所属:株式会社Mocosuku

